

今日サントメ最大の輸出量を誇るCECAB

まずはじめに、カカオの栽培を組織しなくてはなりません。2005年から、KAOKAは生産者たちを集めていくつかの組合を作り、それらの組合をひとつの協同組合CECAB（有機カカオ組合）に集約しました。生産者は、コミュニティの小規模組合の中で、少しずつ連携し始めました。乾燥発酵設備、保管倉庫などのインフラも整備されました。農園のリノベーションに関するプログラムも始動しました。有機栽培の規則に沿った生産を保証すべく、技術チームを編成し、生産者をフォローするようになりました。

CECABは2200人以上の小規模生産者が集まる約36の組合を取りまとめており、この人数は、サントメの農村人口の約15%にもあたります。



KAOKAは、有機カカオ豆を一般的なカカオ豆より約25%高く買い取ることを、生産者に保証しています。同様に、カカオ相場が下がった場合の最低買取価格も設定しています。



農園のリノベーションと IFADの支援プロジェクト

エクアドルで開発されたKAOKAのリノベーション技術が活かされ、2012年から2017年にかけてIFAD（国際農業開発基金）との間で締結されたPPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）による支援を受け、サントメの700ヘクタール以上に及ぶ農園のリノベーションが完了しました。

KAOKAによる資金援助

2015年以来、KAOKAは、共同組合の発展に不可欠なインフラ整備への資金援助に参加しています。コミュニティストアの設置や組合の音楽グループの創設などがその一例です。

今年KAOKAは、組合のメンバーや地域住民へのチョコレート販売を目的とした、小さなチョコレート工場の設立を支援しました。



ASEPIC 社会教育プロジェクト

2012年、KAOKAはASEPIC（サントメ教育文化交流推進協会）とパートナーシップを締結しました。この年、サントメ75%の板チョコレート1枚購入につき、0.05ユーロがASEPICに支払われました。これらの基金は、校舎や設備の修繕を通して、子ども達の学習環境に大幅な改善をもたらしました。また、サントメ初の子ども向けメディアライブラリーの開設にも役立てられました。更に、食育菜園の開設も実現されました。

